

稲苗が順調に育っている！

11年5月5日

広町田んぼの会

広町緑地の緑が1日ごとに濃くなり、田んぼ一帯ではシュレーゲルアオガエルの大合唱が終日、響き渡ります。その一面に設けたトンネル状のビニールハウスの中で、稲苗が2センチほどに伸びそろい、約1か月後の田植えを待っています。

底の浅い70×30センチの育苗箱23枚にうるち米キヌヒカリ、7枚にもち米マンゲツモチ。種籾を4月16日に蒔き、8日目の24日に発芽し始め、いまは2センチほどに生長しました。

朝9時にハウスの両端を開いて風を入れ、ジョ

ウロに2～4杯の水をかける。夕4

時ごろ、再び水遣りをして、ハウスの両端を閉じる。この役割を苗当番と名づけ、77歳の最長老はじめ70歳以上の7人が日替わりで務めています。



低温にめげず、そろって生長

発芽の前後、低温が続き、育苗箱により発芽にバラツキがあつて、発育が心配でした。しかし、4月末から芽がそろって育ちだし、バラツキはわずかになりました。5月中旬には、朝の冷え込みの心配がなくなるので、育苗箱をハウスから出し、田んぼに浅く水を張って移します。

そのころから、苗は一段とたくましく生長し、6月初旬の田植え時には、10～15センチに育つことでしょう。